

団体戦
2勝

まわしを締めぶつかりげいこに取り組む部員たち



「少人数でも負けない」。全国舞台での活躍を夢見る広島大相撲部

廃部の危機乗り越え「ハッケヨイ！」 少数精鋭。高い志掲げ土俵に青春

広島大相撲部

榎藤奨さん(理学部2年生)、川本涼太さん(理学部2年生)
副島康平さん(理学部1年生)、福家英敏さん(法学部1年生)
クリスティアン・コロネンさん(教育学部4年生)

中四国の大学で唯一の相撲部。映画「ちゃんこ」(2006年公開)の題材にもなったことで知られる。部員不足で何度も活動休止に追い込まれながら、その都度復活を果たしてきた。「全国舞台での活躍」を夢見て稽古に励んでいる。

現在の部員数は留学生でフィンランド出身のクリスティアン・コロネンさん(26)(教育学部)を含めて5人。週に3日、屋外に設けられた土俵で稽古に汗を流す。取材に訪れた日は、昼間とはいえ1月の肌寒い時期だったが、4人がまわしを締めて登場。気合を込めてしこやり足、ぶつかりげいこをこなした。

相撲を始めたのは全員が大学から。主将の榎藤奨さん(理学部2年生)は168㌔、75㌔。高校まで野球に打ち込んでいたが、「漫画を読んで、

力と力がぶつかり合う」相撲に憧れ入部した。「体重は増やしたいが、僕のように体が小さくても、体の大きい人に勝てるのが相撲の魅力」と目を細める。

理学部1年生の副島康平さんは165㌔、100㌔。「体重を生かせるのでは」と入部したが、「体重差で勝てると思う相手にもなかなか勝てない。シンプルなスポーツだけど奥が深い」と話し、相撲の基本技術の習得に躍起だ。

創部は1985年。当時は千田キャンパスの運動場の隅に円を描いての活動だったが、西条への統合移転が完了したのを機に98年、本格的な土俵が完成した。何度も廃部の危機に立ったが、「部をなくすわけにはいかない」と、新入部員の勧誘に力を入れ危機を脱してきた。

クリスティアンさんは、相撲部が部員獲得のために開催した学内素人相撲大会に参加したのがきっかけで入部した。「まわしを付ける恥ずかしさはあったが今はない。技を覚えるのは大変だが、相撲は礼儀作法とスポーツが融合した面白いスポーツ」。すっかり相撲の魅力にはまっている。

指導する監督やコーチがいないため、部員たちは先輩から技を教わったり、大相撲力士の取り組みの動画を見たりしながら、研究を重ねている。

毎年、全国学生相撲選手権や西日本学生相撲大会、国公立大相撲大会など5大会に出場する。「各大会とも団体戦での2勝と、戦っているリーグのレベルを1ランク上げるのが目標」と榎藤主将。過去の団体戦では1勝したのが最高の成績。高い志を掲げ、土俵に懸けた部員たちの青春は続く。